

株式会社 フレーム 代表取締役 いしかわ りゅう た 石川 竜太 氏

企業や作り手の想いを表現。 デザインを身近に感じてほしい



PROFILE

1976年生まれ、三条市出身。2006年、株式会社フレームを創業。商品・ブランド開発、C.I・V.I計画、ブランディングなどデザイン全般にあたる。麒麟山酒造コーポレートデザイン及びパッケージデザイン、キリンビバレッジ「生茶」、LOTTE「紗々」パッケージデザイン、ダイニチ工業ロゴデザインなど、県内外企業ブランドのデザインを多数制作。これまで国内外の数々のデザイン賞を受賞する。2020年、ロゴデザインの発想法などを収録した「毎日ロゴ」を出版。

誰もが見たことのある商品パッケージやロゴをはじめ、さまざまな企業ブランドのデザイン、ブランディングを手がけているフレーム。デザインのカでクライアントの想いを形にし、新しい価値と魅力を生み出している石川代表に、お話を伺いました。



株式会社 フレーム
〒950-0088
新潟市中央区万代3丁目3-27 DNビル2F
TEL : 025-255-1655
<https://frame-d.jp>

デザイナーという職業が認知され、
“デザインをもっと活用したい”と
たくさんの方に思ってもらえるよう
なアプローチをしていきたいです

長年受け継がれてきた 代表銘柄のラベルを一新し話題に

株式会社フレームは、デザイン会社から独立した石川代表が2006年に創業。これまで数多くの県内企業のデザイン、ブランディングを手がけており、中には独立前から担当しているクライアントもいるという。「麒麟山酒造さまとは前職時代も含め、もう20年ほどデザインのお手伝いをさせていただいております」と石川代表。麒麟山ブランドの魅力を伝える数々のパッケージデザインを制作してきたが、昨年、長年受け継がれてきた代表銘柄のラベルを一新し話題となった。「同社は100%地元産の米と水を使った酒造りに取り組まれているので、新しいラベルも地域の財産が生きている酒を表現したいと思いました」

クライアントとの対話を重視。 何を表現すべきかを決める

デザインを生み出す上で大切にしているのは、クライアントへのヒアリング。依頼主が目指すもの、想いやこだわりなどをいかに汲み上げていくか、そのプロセスを重視している。「デザインそのものにこだわりはありません。大切なのは何を表現すべきかを決めること。さらに、表現したものがお客様の利益に繋がらなければいけないと考えています」。こうした「機能するデザイン」を創るためには、生活の中で常にアンテナを張り、問題意識を持って行動することが大事だという。「例えば食品メーカーさんのパッケージを依頼されたときに、その商品がどういう売場にあって、他にどういう商品が並んでいるかを頭の中でしっかりと描けることが大切です」



(新潟清酒 with 古町芸妓)
新潟商工会議所の依頼から生まれた「新潟清酒 with 古町芸妓」は、尾畑酒造、今代司酒造、麒麟山酒造、青木酒造が協力。新潟の文化と魅力を織り込んだパッケージデザインは、海外のデザイン賞を受賞している。
※現在、通常販売は行っていません。

新潟の文化を伝える商品を提案。 カフェを発信・交流の場所に

2019年には新潟商工会議所から古町芸妓をPRする商品企画の相談を受け、県内の酒蔵とコラボした「新潟清酒 with 古町芸妓」を提案。「県外の方への手土産にもいいし、もらった方は芸妓だけでなく、新潟のおいしい清酒も知ることができる。双方に良い企画だと思いました」。振袖さんの着物をイメージしたパッケージデザインは、4つの酒蔵ごとに異なる色や新潟の四季が織り込まれ、新潟が誇る日本酒と芸妓の文化を伝えている。

さらに昨年秋から、新潟市新津美術館内のカフェも運営。ここではフレームがデザインを手がけた新潟の魅力あるモノを紹介し、今後はワークショップも開催するという。「私が常に言っているのは、たくさんの方にデザインをもっと身近に感じてほしいということ。そこを軸に今後いろいろな取組をしていきたいですし、カフェもその一環になればと思います」と石川代表。デザインの力で新潟の魅力を発信し、デザインが持つ可能性をこれからも生み出していく。



(cafe 2F 新津美術館)
ドリンクやスイーツを楽しみながら、フレームが手がけたデザインを鑑賞できるカフェ。多くの人にデザインの楽しさに触れてもらえる場所を作りたい、という思いから運営を始めた。